



近森会グループ

# ひろっば

# 11

Vol.280

発行 ● 2009年10月25日

www.chikamori.com 〒780-8522 高知市大川筋一丁目1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者 ● 近森正幸 / 事務局 ● 川添昇

## 災害拠点病院の指定

### 求められる災害医療に対する 職員の意識のさらなる向上

近森会グループ 災害対策委員会 委員長 山本 彰



世界中で大規模地震が頻発して、次の南海地震の発生が、ますます現実味を帯びてきました。次の地震はマグニチュード8.4規模で発生し、高知県内は震度5強から6強（一部では震度7）という強い揺れとそれに伴う津波が予想されています。

近森病院は平成9年から高知県災害医療対策本部高知支部の災害支援病院として指定されて活動してきました。災害支援病院は救護病院や一般の医療機関からの負傷者を受け入れ、災害医療を支援す

ることがその役割でした。そのため院内での防災訓練、多数傷病者受け入れ訓練を行なうとともに、高知県・高知市総合防災訓練に積極的に参加してきました。また、災害医療援助チームであるDMATも3チームが研修を受け、7月31日には高知県と高知DMAT協定が締結されました（詳細は『ひろっば』278号1面に）。

それに加えて、今回、平成21年9月11日付で高知県より、医療法人近森会近森病院は災害拠点病院の指定を受けました。

災害拠点病院とは「災害時における初期救急医療体制の充実・強化を図るための医療機関」であり、24時間いつでも災害に対して緊急対応でき、傷病者の



スマトラ沖地震で倒壊した家屋の捜索に当たる緊急援助隊のようす。この援助隊に近森病院DMAT隊員の井原則之 ER科長も加わった。近森病院には2007年4月から3チーム16名の隊員が組織されている。詳細は下段で。

受入れが可能な体制を有する病院で、被災地内への医療救護班の派遣など、災害救護活動において中核を担う役割をもっているとされています。大規模地震などでは多数傷病者を受け入れ、入院が予想され、多数の簡易ベッドなどの備蓄が必要になってきます。

これまで以上に災害医療に重要な役割を担うことになり、職員の災害医療に対する意識のさらなる向上が必要になっていきます。

### ● 11月の歳時記 ●



### 銀杏の葉

イチヨウ科イチヨウ属  
文●近森リハ病院 臨床栄養部  
鈴木 香代

この時期、紅葉も良いですが、イチヨウの黄金色も、私達に秋らしさを感じさせてくれます。詩人ゲーテは、2枚の葉がひとつに結ばれているように見えるイチヨウの葉を男女の愛の象徴と見ました。彼は自宅の庭に植えていたイチヨウの葉を添えて、愛する女性に詩を贈ったそうです。皆さんも大切な人に贈ってみませんか？（※イチヨウの種子が銀杏・ぎんなん。但し、木自体も「銀杏」と書き、この場合は「イチヨウ」と読みます）。



鍵本 由紀  
（広報担当）  
画●総務課



## スマトラ沖地震への 救助チーム活動報告

近森病院 ER (救急センター) 科長 井原則之

日本時間で2009年9月30日(水)19時16分に発生したスマトラ沖地震に対して、10月1日から8日まで、JICA国際緊急援助隊救助チームの一員としてインドネシアに出動しました。派遣にあたり、院内スタッフ皆様からの多大なるバックアップをいただいたことを感謝するとともに、受診にいらした皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

### JICA 国際緊急援助隊救助チーム

救助チームは地震災害などで生き埋めとなった傷病者を救助することを目的に、救助隊員は警察庁・消防庁・海上保安庁の3庁から組織されています。医療班は救助隊員の健康管理および傷病者の緊急治療のために医師・看護師5名が帯同しました。

### 捜索活動開始は派遣通知の翌日

地震発生の翌日である10月1日昼に派遣決定の通知が届き、急ぎ成田空港に向かい派遣メンバーと合流し、同日の23時頃に成田空港からジャカルタに向かいました。

10月2日午後(現地時間)に被災地である西スマトラ州パダン市【※次頁へ】



出発日、成田空港で



【※前頁より】に入り、夜通しでの捜索活動を開始しました。**残された24時間が勝負!** 地震災害などでの重傷な怪我や生き埋めとなった人は、72時間以内の救助・治療が一つのボーダーラインとされています。現地に到着したのが発災後48時間であり、そこから24時間での活動が最も重要視されていました。

**医療班として、頑張りました。**

倒壊したホテル、ショッピングセンター、学校などを、日本から持ち込んだ生存者確認の機材と手足を駆使して捜索活動を行いました。残念ながら生存者の発見には至りませんでした。医療班として、私は救助現場まで出向くこともあれば、ベースキャンプで食事を作ったり、仮設トイレの整備・掃除をしたり、救助隊員の傷や疾患の治療をしたり、自分が出来ることを頑張ってきました。救助犬に点滴も行いました。パダンは赤道付近に位置し、高知の真夏に相当する環境でした。救助服



ベースキャンプでの食事作りも行いました!



脱水症状を起こした救助犬への点滴も行ないました

の下で、汗が滝のように流れ続ける中での活動(シャワーなど望むべくもなく)でしたが、頭と身体を駆使して精いっぱい活動が出来たと思っております。現地の人々から「thank you」「ありがとう」「Terima kasih」と繰り返し声をかけられたことはとても印象的でした。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災地の早期復興を祈念します。

**聴診器と私**

**違和感**

近森病院 第二分院 5階病棟  
看護師長 萩原 博

学生として看護の道を歩み始めたのは確か昭和の終り、聴診器にもその頃めぐり会ったのを覚えているが、当時のユニホームはジャージにトレーナーであり、白衣に聴診器という抜群の相性とは異なり少し違和感があった。

配属になった科から自身の看護スタートは「身体」でなく「心」寄りであったこともあり、身体の音を聞く機会が他科に比べ少ないためか、聴診器にまつわる記憶は「違和感」としか蘇ってこない。しかし聴診器を使う機会が少なかったからといって、自宅の聴診器も子どものおもちゃになっているからといって、何も聞いていなかった訳ではない。

今まで多くの患者さんと出会い、いろんな人生や心の声を聴くことができた。「何故このような行動をとるのだろうか?」と分からず悩んだことも気付くことができるようになった……と思っている。

その分、年もとり今では首に聴診器ではなく磁気ネックレスが欠かせなくなりましたが、これからも心の声を聴き取れるように聴心器をぶら下げ、日々の関わりから違和感を感じ取り心の看護に役立てていきたい。

# 看護部の制服が替わりました!

ユニフォーム委員会委員長  
近森リハビリテーション病院3階東病棟師長 竹村 和芳



電子カルテを見ながらミーティング

これまで6年間慣れ親しんだ看護師の白いユニフォームが、この10月12日から、斬新でカラフルなユニフォームに、とうとう変更になりました。

カラーは4色あり、赤と紫=師長、ピンクとグリーン=スタッフ、グリーン=手術室という色分けがなされています。

病棟の看護師=白衣といったイメージを打破して決定した新ユニフォームは、「すごくいい!」「あんまり着たくはない!」と意見が完全に分かれていました。ところが、実際に着てみると、「かなり軽くて、着心地が良いので動きやすくて好ましい!」「見る側も元気になる!」などの意見が増えたので、今回の選定に至りました。

カラフルなユニフォームに負けまいよう、私たち自身も元気に生き生きと働きたいと思えます。

患者さんのご意見が、ちょっと気になる今日この頃ですが……(笑)

## 看護部 キラリと光る看護 Part 2

老人看護専門看護師 岡本 充子 (後列左から3番目)

### 「看取りびとへの道」の交流集会開催

### 有終の美を飾る終焉の時をいかに創るのか



全国から集った老人看護専門看護師の皆さん

2009年9月26日(土)、27日(日)日本老年看護学会第14回学術集会が開催され、老人看護専門看護師主催で『大往生の創造～看取りびとへの道～』として交流集会を開催しました。

専門看護師には六つの役割(実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究)があり、今回の交流集会では、この役割を切り口にして、

- ①高齢者本人の意向を大事にしながら、日々のケアをいかに苦痛を与えずに行い、人間らしい姿で最期を迎えられるようにするのかを考え実践した事例
- ②老いを踏まえた看取りの意識をもってケアが実践できるようにスタッフの成長を支えていった相談事例
- ③高齢者の伴走者として高齢者本人や家族の思いを汲み取りながら、予測の

難しい高齢者の終末期を過ごす場の調整を行った事例

④認知症高齢者の持てる能力を評価し、認知症高齢者の思いを代弁しながら調整を行った事例

について四人の老人看護専門看護師が報告し、有終の美を飾る終焉の時をいかに創るかについて意見交換を行いました。

その中で「よく生きることはよく死ぬことにつながる」、「死」について語る場が必要、といった意見も出されました。死は避けられないことであり、今後も老人看護専門看護師として、よりよく生きてもらえるような看護、残された家族や関わったスタッフにとってよい余韻が残るような看護を提供していきたいと思えます。



CCUでミニカンファ中、左は久保田看護部長



ICUでのひとこま、左端は西本看護師長

## ようこそ看護管理者研修に♥

沖縄県浦添市内で、地域の中核病院の役割を担う浦添総合病院は、総病床数302床の24時間救急病院で、地域医療支援病院、臨床研修指定病院でもあります。田中桂子看護部長が看護管理者研修にみえられましたので、『ひろっぴ』にも寄稿をお願いしました。



沖縄県の浦添総合病院から研修で来ました田中桂子と申します。近森病院には職員の人事交流等を通していろいろとお世話になっております。今回は新米看護部長の研修までお願いしてしまいましたが、快く引き受けていただき本当に感謝しています。

かが今後の課題です。高知県と沖縄県は温暖な気候と気さくな人柄が共通していると思えました。短い研修でしたが高

研修中は近森理事長、梶原統括看護部長や久保田看護部長をはじめとして、職員の皆様にお世話になりありがとうございました。

看護管理者としてのあるべき知識・判断・態度・行動についての多くを学ばせて頂きましたので、自院で研修の成果をどう生かしていく

知弁が移ってしまうほど、居心地のいい高知県と近森病院でした。帰沖の際にお土産にいただいた「芋けんぴ」があまりにもおいしく、その後宅配発注して手に入れた芋けんぴを、職員皆で囲みながら近森病院をなつかしんでいます。今後ともよろしくお願ひ致します。



急性期 リハビリテーションシリーズ その4

呼吸リハビリテーション

呼吸器疾患を改善するために 行なう呼吸リハビリテーション

近森病院 理学療法科 主任 塩田 直隆

必要性の高まる呼吸リハビリテーション

日本は、世界でもっとも社会の高齢化が進んでいる国のひとつであり、高齢化に伴う疾病構造の変化により、慢性閉塞性肺疾患、呼吸器感染症、肺腫瘍などの慢性呼吸器疾患が増える一方、医療の高度化、在院日数短縮の流れのなかで、急性期から呼吸リハビリテーション（以下：呼吸リハ）に対するニーズは高まりつつあり、リハビリスタッフの関わりが求められる機会が増えています。

呼吸リハビリテーションとは？

呼吸リハはこうした疾患に対し生命予後に加え生活への充実感の指標が求められるようになってきました。呼吸リハビリテーションとは脳卒中などのリハビリテーションと同じよ

うに呼吸器疾患に伴う障害があり、それが原因となって患者さんの日常生活動作（ADL：Activities of Daily Living）や、生活の質（QOL：Quality of life）が損なわれる場合に、その状況を改善するために急性期からの介入が求められるリハビリテーションのことです。

呼吸リハビリテーションで留意する点

その介入にあたっては主治医や病棟スタッフと連携をとり、リハビリを行ううえで問題となる併存疾患の病態やリスクの評価、全身状態をモニタリングしている場合はリハビリを行う際に配慮が必要であったり、リハビリ中はリスク管理が不可欠など、留意しながら進めていく必要がたくさんあると思

訓練に入る前、身体状態を把握するためにまず聴診器を使っている塩田主任



われます。

呼吸リハビリテーション効果を高める工夫

また、リハビリでの効果を得るには運動療法のみでは得られにくく、患者さんの状態に合わせた酸素療法・呼吸理学療法・薬物療法・栄養療法などを各専門職種が指導・教育・サポートしていくことで効果が得られるものだと考えます。

呼吸リハビリテーションの現状

実際に急性期の現場では疾患や病態は多岐にわたり病状は刻々と変化するため考えさせられることがあり、試行錯誤しながら取り組む場面が少なくありません。

リレーエッセイ

オルソリハビリテーション病院 6階看護師 永野 真美代

やっぱり猫が好き



突然ですが皆さん犬派ですか？猫派ですか？

私は断然猫派です、犬も好きだけどやっぱり猫が好き。あの愛らしい

しぐさや表情、寝てばかりでやる気のないところがなんだか癒されます。

私の猫好きは小さいときからだったみたいで、小学校の帰り道、捨て猫を拾って帰っては母親に怒られた記憶があります。そのDNAが娘に遺伝したのか・・・やっちゃんいました……。

堤防で鳴いていた三毛の子猫を抱えて帰ってきた娘。どうすんの！うちにすでに猫（ぶちおハッチャン）がいてシャーって威嚇しっぱなしだし、でもいまさら、また捨てにはいけないし……どうなるかと心配したけど三日後



なんか和解し、なんとハッチャンはおっぱいを吸わずまでの（おだけど）仲になりました。

ところで三毛猫ってメスだけだかって知っていますか？ わたしも最近知ったのですが、三毛（白、黒、茶）になるには白ぶちになる遺伝子、黒毛になる遺伝子、茶色毛になる遺伝子の三つの遺伝子が必要です。白ぶちになる遺伝子は常染色体に存在します。黒毛遺伝子と茶色毛遺伝子はX染色体上に存在しX染色体1本につき1つです。メスは染色体XXなので、黒毛、茶色毛の両方持つことが可能です。オスは染色体XYなので黒毛か茶色毛のどちらかしか持つことができません。なので三毛猫のオスは存在しないことになります。でもごくごくまれに染色体異常などでオスが生まれることがあるそうですが、すごく珍しいことみたいですよ。百万円ぐらいの価値があるとか、ないとか……。

我が家の一員になった三毛猫（ナナ）はやっぱりメスでした（残念）。今では二匹はとっても仲良く、食べては寝、遊んでは寝ている二匹を見てると、今度生まれ変わるとしたら猫になりたいと思うのは私だけでしょうか。

恒例ピアノコンサート



すっかりお馴染みとなっている高村美智代(左)、野村朝子両姉を迎えた屋下がミニコンサート。今月は10月23日でした。前回9月18日に開かれた折、会場からリクエストのあった中国の『海はふるさと』が披露され、「今月もここで聴いてるよ～」と、そんな微笑ましい場面もありました。次回は11月27日予定です。

新医療安全シリーズ⑩

医療安全担当看護師長 田村 一恵

サービスを「買う」



10月中旬、オーストラリアを旅行した。これまでに何度も海外旅行に行っているが、関西空港⇄ゴールドコースト・シドニー間を運行している航空会社のシステムは初体験であった。

この航空会社は、毛布・イヤホン・機内食・ドリンクサービス全てがオプションになっており、事前にオプション予約をしている乗客のチェックリストを見ながら乗務員はサービスに回る。

私たちが座っていた四人掛けの座席の端に一人だけ外国人の女性が座った。彼女は事前にオプションを希望していなかったのか、約9時間のフライト中、自身が持ち込んだスナック菓子と、座席に配られていたペットボトルの水1本だけを口にしてお過ごしていた。

隣で機内食やドリンク、毛布のサービスを受けている自分が何だか申し訳なく感じ、今まで機内で受けていたサービスが当然のこのように思っていただけにオプション化されたシステムに少し違和感を覚えた。

離陸前の安全に対する説明中、前方スクリーンに「私ども〇〇航空は、お客様の安全を第一に考えております」との表示に、安心したのは私だけだったでしょうか…。

2009年度 職員旅行 その1

オーストラリア 10.13～10.18



近森会スタッフにはまるでお庭のような馴染みの!? オペラハウス前広場で。豪州のベストシーズンの澄んだ空がとっても爽快でした！ また行きたいっ!! (写真提供 田村一恵)



東京ディズニーリゾート(全4班) 9月～12月

科外にももう5回目ですが、何回行っても楽しいです。ハロウィンパーティーのお化け達をパッと見ると、整形外見がすごい！ (写真提供 吉永富美)

私の趣味 スキューバダイビング

近森リハビリテーション病院 2階東病棟看護師主任 中川 正樹

私はもともと身体を動かすのが大好きで、色々な趣味を見つけようとサーフィンやスノーボード、つりなどをやってきましたが、性格が飽き性なので長くは続きません……。

唯一続けているのは高校時代から行っているギターを弾くことです。他は最近、嫁の誘いもあってスキューバダイビングにハマっています。

私の地元は高知県幡多郡大月町という田舎で、あまり遊ぶ場所もないですが、自然（海）だけは誇れるのかな？と思っています。

この写真は帰省した際に、柏島の海にスキューバダイビングに行った時に撮影したものです。

友人達がヒョウモンだこに気をとられていたのですが、自分の身体の左下の岩の下からウミガメが出てきたので、一気にテンションがあがりました。

その後もしばらく友人達の近くで写真撮影に応じてくれました。ウミガメを見ることができたので、何かいいことがあればいいな♪と思う今日この頃です。



新シリーズ♥♥♥ 管理部長の こだわり ヘルシー美食 12

四季を色で喩えると、春は青（青春）、夏は赤（朱夏）、冬は黒（玄冬）、そして秋は白（白秋）である。



川は激しい流れの上流から中流で田畑を潤おし、やがて河口に達する下流が終わり、海に出る。

S.ウルマンの「青春とは人生のある期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ」と言ってみても、どう考えても私は今はもう白秋であり川ではなく河口域に達していると思う。でも食べ物美味しい季節であり豊かな魚達が棲息する汽水域でもある。豊かな人生の楽しみはこれからだと期待している。

毎月超簡単なレシピで貴重な誌面を使ってしまっているが、お許しいただきたい。今回は、さっぱりと……

海老と貝割れ菜のマリアージュ



画 臨床栄養部科長 吉田妃佐

- 〈作り方〉
①小さめの海老（ブラックタイガー）の背ワタを取って、5分ほど塩ゆでし
②ガラス皿の上に貝割れ菜を敷き、
③その上に冷まして殻をとった海老を盛りつけ、
④オリーブオイルに塩コショウを少々と、スタチを絞り③にかける。
味はお好みで。

〈食す〉
スタチの香りと酸っぱみと貝割れの辛みがとても海老にマッチする。口の中は「早くワインを」と矢のような催促。最近では千円前後でも結構なワインが多くなった。「ウームなかなかフルーティ」などと言いながら食べては飲み食べては飲みの繰り返し。人生の秋などと言ってはほられない。あとと鶏の足でもワシワシ食べるぞ。



### 岡山県立大学で講義の出張報告 ● 2009年盛夏(8月2日)

梶原和歌統括看護部長、野村真紀医療相談室長、辻啓子看護師、内山里美管理栄養士の四人が、チーム医療についての講義を行ないました。

### 大学生の熱心さにパワーを戴きました！

## チーム医療では互いの専門性に理解と誠意を持つことの大切さを改めて…

近森オールソリハビリテーション病院 臨床栄養部 主任 管理栄養士 内山 里美

#### ① チーム医療を各職種の目線から

岡山県立大学へチーム医療についての講義に行かせていただきました。同大学保健福祉学部では、医療現場におけるチーム医療に対応できる人材の育成を目的としたカリキュラムを組んでおり、私たちの講義はその一環として、近森会グループでのチーム医療を各職種の目線から紹介する、という内容でした。



#### ② 各職種の卵たちが入り混じり受講

3年生が対象だったのですが、縦割りの専門教育がメインだった私の学生時代とは違って、看護師・社会福祉士・管理栄養士といった各職種の卵たちが入り混じって講義を受けているという点が大変ユニークでした。

#### ③ 他職種との関連にも具体的な興味

講義の後半はグループに分かれ、質疑応答の時間が設けられていました。

栄養学科の学生さんが管理栄養士である私の仕事に関心があるのは、ある意味で当然のことですが、看護学科や、保健福祉学科の学生さんからも、お互いの職種が医療現場のどういった場面で連携をとっているのか、各職種の業務のどの部分がリンクしているのか、具体的なエピソードを交えての説明



一同記念撮影(3枚とも提供は、保健福祉学部看護学科高井研一教授)

を求められたことには驚きました。

学生さんたちは、他職種の仕事や専門性にも強い関心を持っていて、他職種と自分の専門性をどのように連携させて、よりよい医療につなげていけばよいのかを考えていました。各グループでの意見交換は時間いっぱいまで活発に行われる熱心さが印象的でした。

#### ④ 講義により改めて気づかされた！

チーム医療に携わるスタッフにはもちろん高い専門性が要求されます。しかし、その専門性を医療に活かすためには、スタンドプレーではなく、チームプレー、そしてスタッフ間の「連携」が何より重要です。

お互いの専門性に理解と敬意をもつことの大切さを今回の講義に行かせていただいて改めて感じ、将来のチーム医療を担う学生さん達からパワーをもらって帰ってきました。



辻啓子

## 薬用酒アラカルト③③ ビワの種酒

ほのかな甘味とみずみずしい香りが大好評だった『ピワ酒』を平成16年7月の216号でご紹介させていただきました。今回のお酒は、ビワの種のみを使ったものです。材料の提供は、今回も近森理事長。日曜市で見つけたというきれいな種をいただき、漬け込みました。

<材料> (密閉容器1リットル分)

ビワの種・250g、氷砂糖・60g、ホワイトリカー・800ml

<作り方>

- ①ビワの種は水で洗い、よく水気をふき取る。
- ②容器にビワの種と氷砂糖と入れ、ホワイトリカーを注ぐ。
- ③3ヵ月ほどで飲めるようになる。

ビワの種には人間の生命維持に必要な全ての成分がバランスよく含まれており、中でも特に有効性を示す成分は、ミネラル、アミグダリンといわれています。

花粉症や、血液浄化、ガンの抑制、炎症、肩こりや腰痛、生活習慣病、婦人病、自律神経失調症、健胃整腸、鎮咳、利尿など、さまざまな作用があるといわれています。

漬け込んでから約3ヵ月後、恒例の『ひろっぴ』編集委員による試飲会を行いました。琥珀色のビワの種酒、種がどん



なお酒になっているのか想像もつかないまま容器のフタを開けると……。

意外や意外！！ さわやかな甘い香りが漂いました。氷を浮かべて一口、みんなの第一声は、「杏仁豆腐！？」。ピワの味はしませんが、さっぱりとした甘さの上品なお酒に仕上がっており、おいしいと大好評でした。杏仁豆腐のような香りは、ピワがアンズと同じバラ科の植物で、同じ成分を含んでいるためと思われます。

その他、「炭酸で割るとおいしいかも」、「えぐみなどが出る前に実を引き上げるとよいかも」などのご意見もいただきました。おいしさも効果もぎゅっと詰まった「ピワの種酒」、その不思議な味と香りをぜひお試しください。

(薬剤部 主任 嶋崎 ユリカ)

### 人物ルポ 254 ● 高知ハビリテーリングセンター・ソーシャルワーカー 片岡 裕美さん

## ほんわかハッピーに 周りを包む上機嫌力

#### 高次脳機能の窓口担当

高知市春野にある高知ハビリテーリングセンターの正面玄関に入ってすぐの左手に、県の委託を受けた「高次脳機能障害相談支援センター」がある。その窓口で全身を笑顔で包んで迎えてくれるのが、支援コーディネーター(兼相談員)のひとり、片岡裕美さんである。



附属中学から追手前高校に進み、岡山県の吉備国際大学社会福祉学科で学んだ。大好きで親友のような存在でもある母親が、歯科衛生士だったり池の療養所に勤めていたりした関係から、「大人になったら医療関係の仕事に就く」のは自然の流れだった。「スーパーおちょこちよいなので、注射器など触る必要のない職種の方が…」と自身で判断した結果の進学だった。

#### いつも患者さんのいちばん近くで

大学卒業後、即近森会に就職、老健施設いごっばちなど数部署で相談業務に当たり、昨春の高知ハビリテーリングセンター開設と同時にハビリへ移り、高次脳機能障害のセンター開設とともに窓口担当に就任。近森会が、もっと地域へもっと家庭へと、より皆さんの身近に向かうたびに最前線に異動して相談業務に当たってきた。

笑顔で相手を包む穏やかさと、ピンチに備える柔軟さや打たれ強さで、上司や同僚の信望が厚い証拠だろうが、ご本人は「六人の同期のなかで周りにいちばん迷惑をかけてきました。同僚の対応の仕方を見て真似したらうまくいった!!」というのが続いています」と、アッケラカ〜ンと笑っている。

#### 周りのほんわかハッピーな空気の秘密

いま、利用者や気長に関われる態勢で仕事ができているのが、「とても楽しい」と、本当に幸せそうに声を弾ませる。利用者それぞれには時に難しい事情も起るのだけれど、それを「気長に関われる幸せ」と受け止め、自分の状況を楽しんでいるのだから、片岡SWの周りが何となくほんわかハッピーな空気に包ま

れるのも頷ける。

『ひろっぴ』の編集会議で、「ハビリの感じのいい子」という話題が出たとき編集委員一同が「あの、ワーカーの…」と一斉に片岡SWの名前を挙げるほど、その感じの良さは知れわたっているのだろう？ その疑問には、じ〜っと考え込んでから、「この仕事が好きです…」と…。そういえば、この夏偉業を成し遂げたイチロー選手は、その活力源を「野球が好きなこと」と語っていた。

あまりにも当たり前過ぎて、「好き」と聞いてもつい聞き流してしまいがちだが、片岡SWを見ると、原点はやっぱり自分の仕事を「好き」になることだと改めて気づかされる。

#### 不便は取り立てて言うことではありません

就職して友人に誘われるままに気楽に始めた車イスバスケで、生涯の伴侶となる片岡さんと出逢い、やがて結婚することになった。彼に逢うまで、大好きな母には「苦勞を買うようなことをする！」と随分心配もかけたようだが、ご両親は「頑固だから言い出したら聞かない！」と、受け入れてくれたのだそう。

裕美さんにはむろん苦勞を買っているつもりはない。夫が車イスを使っているとか、一見めんどくさそうに思われるかも知れない家庭生活の細かいことも、「違いや不便を取り立てていうことではないので〜」。で、いまは家族や親戚は言うまでもなく、職場のみんなも、片岡夫妻の赤ちゃん誕生を心待ちにしているところである。



2006年4月23日、片岡さんと挙式。これは式直後の記念撮影。そのあと牧野植物園に移動し、いまでもしばしば話題にのぼる感動的な披露宴だったらしい……。裕美さんは、「すごく楽しくてあっという間の一日でした(またやりたいです！笑)」

## 私のこの一枚

### みんな気持ちは中学生だった

診療情報管理室 武内 仁美



友人の結婚式の余興で一場面。余興は中学校時代の同級生男女15名でお祝いの組体操をしました。練習中は「痛い!」「足つったあ!」等の悲鳴、思うように動いてくれない身体達…、そんな日々を重ね、いざ本番。盛り上がり期待して、いちばん体格の良い同級生がいちばん上へ。会場には「え〜!?!」「大丈夫〜?」の声がどよめくなか、何とか無事成功。皆様からたくさん声援や拍手をいただきました。そんな楽し面白ない思い出を蘇らせてくれる大切な一枚です。



ひとみ



# 第17回 2009 大運動会

近森会グループ

騎馬戦玉入れは、よく作戦を練ってから



本年の新競技、大玉転がし。おっど迫力！



やっぱり主役は子どもたち。裏方もやりま〜す！



恒例

「みんなおいでよ」。この表情、子ども責任リレー。もうっ抱きしめたいっ♡ 応援席もつい力がっ！



借り物競走 いちばん

花形、やっぱり綱引きがないと！ 似合っている  
「ファイト一発」腕の筋肉すごッ 人はだれ？



優勝は精神科 管理部チーム  
やはりチームワークの勝利でしょうか！？



## 色彩クラブへのお誘い

個性をキラッとさせませんか？  
あなたは自分に似合う色をご存知ですか？  
キラッと個性的に見えるのにも、野暮  
ったくしてしまうのにも「色使い」  
の比重は意外と大きいのです。  
ぜひ、「自分色」に興味をもって  
みてください。



●この9月から、皆さまよくご存知のカラーコーディネーター小谷隆子さんを講師に迎えて発足しました。詳細は看護部長室の和田有紀子秘書（内線 6617）までどうぞ！

- 基礎講座後、A~Dコースはどの順番でもかまいませんので、ご都合に合わせてお選びください。（定員 10 名様）
- A コース  
TPOとイメージに合わせた色づかい
  - B コース  
配色のポイント
  - C コース  
色の性格と効果的な使い方
  - D コース  
自分色表現、アロマの使い方  
色と香りでお内からも外からもきれいに

第1回受講生です

## 図書室便り

(2009年9月受入分)

- ・循環器フィジカル・イグザミネーションの実際 / 吉川純一 (編著)
- ・心臓超音波テキスト 第2版 / 日本超音波検査学会 (監修)
- ・民主党が約束する99の政策で日本はどう変わるか / 神保哲生 《寄贈本》
- ・レジデントのための感染症診療マニュアル 第2版 / 青木 真 《別冊・増刊号》
- ・別冊医学のあゆみ 癌幹細胞 一癌研究のパラダイムシフト / 赤司浩一 (編集)
- ・臨床栄養 別冊 困ったときのヒント満載 栄養力UP NST症例集2 / 雨海照祥 (監修)
- ・老年精神医学 20巻増刊号-III 老年精神医学の臨床最前線 / 武田雅俊 (他著)
- ・月刊レジデントノート 11巻増刊号 日常診療での薬の選び方・使い方 日頃の疑問に答えます / 徳田安春 (編集)
- ・高知女子大学開学60周年 しらさぎ会 (同窓会) 記念誌「絆と証」 / 記念誌編集委員会 (編集)

2009年9月の診療数	近森会グループ	
	外来患者数	16,975人
	新入院患者数	792人
	退院患者数	763人
	近森病院	
	平均在院日数	15.73日
	地域医療支援病院紹介率	81.50%
	救急車搬入件数	391件
	うち入院件数	200件
	手術件数	387件
	うち手術室実施	268件
	うち全身麻酔件数	146件

企画情報室

## 編集室通信

▼秋も深まり近森会周辺のケヤキや桜などの木々も紅葉色になってきました。ケヤキの紅葉色は赤・橙色・黄色があり、木により遺伝的要因で紅葉色が決まっているそうです。気をつけて見ると赤・橙色系と黄色がバランスよく並んでいて、自然の妙技に感動しました。(和)